

加賀家文書館 第11回特別展 知られざる幕末会津藩北辺防衛の歴史

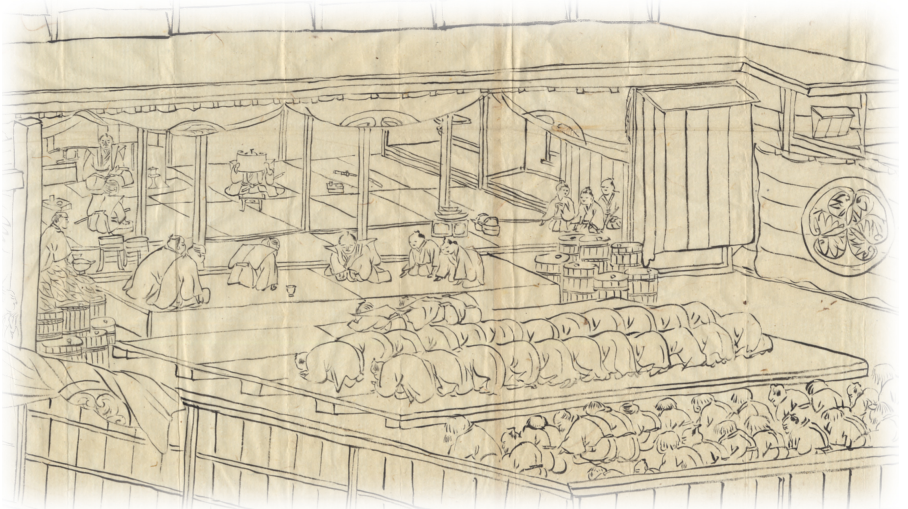
幕末の動乱期、蝦夷地と呼ばれた北海道は東北六藩による分割統治がはじまり、根室地方は西別(現在の本別海)を境に北側が会津藩領となった時代がありました。

「加賀家文書」を書き残した加賀伝蔵は、会津藩の蝦夷地警衛の拠点となったシベツ場所の支配人を勤めることとなります。そして、数少ないこの時代の資料を残し、赴任してきた会津藩士と深い関わりがあったことがわかりました。

今回の特別展は、蝦夷地に渡った会津藩に焦点をあてると共に、

そこで従来から暮らしていたアイヌ、場所請負人たちの動向を探り、幕末のこの地方の様子を紹介したいと思います。

- 期 間 平成25年8月10日(土)～29日(木)
平成25年10月8日(火)～11月28日(木)
- 場 所 別海町郷土資料館附属施設 加賀家文書館



「万延元庚申秋八月廿九日寒所領本川会所御武者之図」

会津藩士 一ノ瀬紀一郎 加賀家文書館蔵

加賀家文書 会津藩関連資料を一挙公開！



会津藩藩主松平容保が眺めていたと思われる「標津番屋屏風」(複製)を展示！

西別川の献上鮭を調べる～別海小学校3、4年生年～

7月11日(木)別海小学校3、4年生14名が、『西別川をもっと知り隊～献上鮭について調べよう』ということで来館されました。

江戸幕府献上の歴史や、西別川の献上鮭の由来・製造方法について説明し、復元した鮭を入れる木箱を紹介し、実際に持ち箱の重さも実感してもらいました。幕末に自分たちが住んでいる土地で、厳粛な取り決めの中行われていた献上鮭の製造やその伝統について学ぶことが出来たかと思えます。



職場体験 (別海中央中学校3年N君)

7月10日(水)～12日(金)の3日間、別海中央中学校3年生のN君が職場体験学習を行いました。

今回の職場体験学習では、①町郷土研究会と共同で実施している風蓮湖動植物調査、②来館小学生対応の実際、③寄贈資料のクリーニング作業、④勾玉づくりの体験してもらいました。

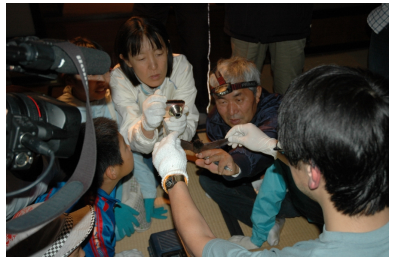
以上のことを3日間実施しました、なれない場所での体験学習となりましたが、与えられた課題を的確にこなし、郷土資料館の意義や役割を学ぶことが出来たのではないのでしょうか。



ふるさと講座自然系第2回目コウモリ観察会

7月19日(金)国指定史跡旧奥行臼駅通所にて「コウモリ観察会」を実施しました。講師は道東コウモリ研究所主宰近藤憲久氏と森利博氏。参加者は16名です。

駅通内で、道東地方のコウモリのお話を聞き、その後、駅通裏に移動し、設置したかすみ網の前でコウモリが飛び立つのを待ちました。かすみ網に一齐にコウモリがかかるようになり、網からはずず作業も大変でコウモリが網を食いちぎろうとしている様子もじっくりと観察出来ました。捕獲後、室内にて、種別同定、計測などを行いました。捕獲されたコウモリは、ホウヒゲコウモリ、ウサギコウモリこの2種は、駅通に住み着いている種なのですが、もう1種キタクビワコウモリを捕獲することが出来ました。参加者はまじかで、コウモリを見て、写真を撮ったり、翼手にさわったりと子供も大人も大興奮した観察会になりました。



ふるさと講座・歴史系 第3回目 特別企画「加賀家文書のアイヌ語を読む」

7月27日(土)当館にて、北海道大学大学院文学研究科教授佐藤知己氏を講師に迎え実施しました。町内はもとより、遠く札幌、網走・釧路・根室管内から28名の参加者もありました。

「加賀家文書」は質量両面において学術的に貴重性の高いものであり、アイヌ語研究の観点からその意義や文献的、言語学的に見た二つの面をお話いただきました。その他に、加賀家文書資料に見られる独特な特徴やアイヌ語方言の比較などのお話をされ、今後益々「加賀家文書」に含まれるアイヌ語の研究の重要性についてお話いただきました。なお、本講座は、北海道立アイヌ民族文化研究センターの全面的な協力を受けました。



別海町郷土資料館だより No.169

発行日 平成25年8月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 いよいよ会津藩関連の特別展の開催です。この事業は、別海町を皮切りに、標津町、中標津町と幕末に会津藩領となった地域の様子を3町博物館施設が合同で行うものです。元陣屋が建てられた標津町ではシンポジウムも開催されます。ぜひ、ご参加いただけると幸いです。(担当 KI)